

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第10号

令和5年7月29日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net> 校長 森 勝義

「学ぶことの大切さ」

～生涯学び続ける姿勢～

校長 森 勝義

34日間、長いようで短い夏休みも終了し、2学期が始まりました。6ヶ月に渡る、長い道のりです。まずは、1学期の反省を生かし、目標をしっかりと定めて、健康に留意しながら着実に歩んでいきましょう。

さて、これからひとりの女性について話したいと思います。私は高校の教師を18年務めました。横浜市立戸塚高校定時制にいたとき、私のクラスに58歳の生徒が入学してきました。当時は37歳、まるで母親のような存在でした。彼女はスーパーのレジうちの仕事を終えると、4年間遅刻もせず、毎日学校へ通つて無事、62歳のとき、戸塚高校定時制を卒業しました。沖縄への修学旅行ではスクューバダイビングに挑戦したり、体育祭・演劇祭などすべての学校行事に積極的に参加していました。

クラスの子たちは男女問わず、彼女にいろんなことを相談し、真剣に一緒に考えてもらいました。

私は、あるとき、彼女に聞いてみました。

「〇〇さん、どうしてそんなに頑張ることができるんですか」と
そうしたら、彼女は笑顔で

「先生、字が覚えられるとうれしいんですよ。数学もまったくわからなかつたことが少しあはわかるようになると、うれしくて、うれしくて」

そして

「高校をでていなかつたので、よい仕事に就くことが難しく、次々と職場を変えました。今、娘二人も結婚して自分の時間ができたので、もう一度勉強して高校卒業の資格を取りたいんです。」
彼女は卒業式の時、最後の学活で、クラスのみんなにメッセージを残してくれました。

「若い頭ならずっとずっと覚えがよい。若いときに勉強しないなんてもったいない。もったいない。損得で、なぜ勉強するのか考え、悩むなんてすじ違いですよ。私もまだまだ頑張らなくては。未熟者ですからね」と。

定時制の先生方は、一人ひとりの生徒を絶対に守つてやる、そんな熱い気持ちで生徒に接していました。「夜回り先生」として有名な水谷修先生とも同じ学年で、4年間一緒でした。

私は彼女とともに過ごした4年間の学校生活で、私自身、教師になって本当によかったです

教育によって人ってこんなにも変われるんだ、知らないことや、できることをさらけだす強さ、まわりの子たちが、中学時代は劣等感のかたまりだった子たち、平気で相手が傷つく言葉を言っていた子たち、そんな生徒たちが年齢の壁を乗り越え、優しく助け合いながら、学校生活を送っていく。

ぜひ皆さんも、1学期の反省を生かし、2学期からは相手を思いやる気持ち、優しい気持ち、笑顔で学校生活を送ってください。

「One for All All for One」の精神、

「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」の精神で運動会等を迎えましょう。

入学式つばさをはばたく一年生 阿部圭寿
 夏になり短い夜がねむけ出す 川井隼人
 夏休み宿題ないアメリカだ 小林篤史
 暑すぎてプールに逃げる夏休み シン律月
 新緑の葉つばさわざわ気持ちいい 鈴木大翔
 春眠の起きては桜散り積もる 筒井尊太
 春休み楽しく笑うチユーリップ ディックス春輝
 散る桜芝生を白く変えていく 飯田怜
 すずめの巣卵がかえりうれしいな 山田蓮
 アメリカは秋休みある最高だ 渡辺陽生
 梨の花インディアナに咲く雪の日も 青木千夏
 夏の海キラキラ光る波の音 石澤真愛亜
 につこりとマスク外して新学期 ゲートウッド
 聖子

灰色の市バス色づき夏近し 熊澤佐保
 茶柱コップの中で春の踊り 檜皮莉那
 そうめんの味変探す母の昼 堀尾心那

「待ち伏せを読んで」

高校一年 野田唯花

私は「待ち伏せ」を読んで文章に沢山の工夫がされているなと思いました。手榴弾を若者に投げる瞬間がとても細く書かれていて、たった一瞬の出来事でも、こんなに色々なことが書けることに驚きました。

一つ目として、筆者が感じた五感がよく出てきます。特に手榴弾を投げた時の音や胃の中から込み上げてきたものを飲み込んだ時の味などが例として挙げられます。二つ目として、この物語に数字がたびたび出てきます。例えば、茂みの中から筆者が見える位置や、筆者の前にある手榴弾の個数が書かれています。三つ目に、最初にその若者を殺したという事實を大雑把に書いたことです。この工夫は私は一番興味深いなと思いました。

これらの工夫にはそれぞれ意味があります。まず一つ目の五感は読者に臨場感を与えるためにあります。次に、数字があることで、物語りがより具体的になり、分かりやすくすることができます。最後に、若者が殺されるという事實を最初に書き記すことで、読者に衝撃を与え、更になぜ殺してしまったのか、という大きな疑問を残します。

臥薪嘗胆

が しん しょう たん

目的を達成するために長い時間をかけ、苦労、努力を重ねること。中国の春秋時代、吳王夫差が薪の上に伏し、越王勾践が苦い肝を嘗めて、報復の志を忘れないようにしたという故事。



ヒケ森の言葉の森・探検

笑顔は一ドルの元手もいらず、百万の価値を生み出す。

デール・カーネギー

1888年～1955年。アメリカの小説家、啓蒙家。

笑顔は好感度が高く、しかも費用はかかるな重なることで、あたかも筆者の隣でその出来事を験したような感覚になることができます。